

(様式1)

平成30年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
呉羽青少年自然の家 生涯学習・文化財室

2 施設所在地
富山市西金屋字長尾8194

3 施設設置年度
昭和50 年度

4 設置目的
自然環境の中で集団生活を通じて、心身ともに健全な青少年の育成を図る。

5 施設概要
敷地面積：35,024㎡
主な施設
・本館：鉄筋コンクリート造り2F 2,983.14㎡ 宿泊定員200名
・野外設備
グラウンド：約2,500㎡
キャンプ場：約3,000㎡
林間プレイランド：約3,000㎡
三楽池約1,000㎡

6 指定管理者
公益財団法人富山県文化振興財団

7 指定期間
5 年
平成26年4月1日 ~ 平成31年3月31日

8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加

H26	H27	H28	H29	H30
17,687	18,644	16,372	15,365	17,210

(2) 利用（使用）料金収入（千円）

H26	H27	H28	H29	H30
8,687	9,871	8,146	7,128	8,681

(3) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

H26	H27	H28	H29	H30
10,285	10,285	10,285	10,285	10,285

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

これまで、利用者数・料金収入ともに減少傾向にあったが、学校関係団体、中体連、高体連等への利用の呼びかけを積極的に行うとともに、企業研修や芸術団体の利用を受け入れるなどし、利用者数及び利用料金収入が増加した。

(2) サービス向上に向けた取組み

- ・利用者アンケートを実施し、記載内容について逐次検討し、運営改善を図っている。
- ・職員の名札着用を徹底し、利用者が意見を伝えやすい環境を整えている。
- ・活動場所の拡大、プログラムの追加、見直しを図り、利便性の向上に努めている。

(3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

- ・新聞、雑誌、インターネットを利用した広報活動を充実させ、利用の拡大を図っている。
- ・再度利用したくなる施設となるよう、職員は、丁寧な対応、適切な指導に努めている。
- ・繁忙期においては、休所日を開所日に変更して利用促進を図っている。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

① アンケート結果

実施方法	実施期間：通年 実施方法：入所時にアンケートを配付
回答者数	182人
結果	満足91%以上
結果を踏まえた改善事項	雨天時の野外炊飯において食べる場所に困るとの要望があったため、木製ベンチやパイプいすを備え付け使用できるようにした。

② その他利用者の声を反映させる取組み

- ・利用者の生の声を真摯に受け止め、所内で検討し善処するようにしている。

③ 主な苦情と対応

- ・同宿の他団体の活動が就寝の妨げとなる→双方の活動計画を細部まで確認し事前調整を図った。

(5) 個人情報保護の取組み

- ・個人情報保護規定を定め、職員に周知を図っている。
- ・広報活動に利用する写真の撮影について、紙面にて事前に承諾を得ている。
- ・個人情報記載された書類は、自由に閲覧できない場所に保管している。

(6) 関係団体との連携

- ・青少年育成富山県民会議の委託を受け、児童の合宿事業を年に4度実施している。
- ・富山県青少年教育施設協議会に加盟し、情報交換や協賛事業を行っている。
- ・隣接する富山市ファミリーパークと連携し、互いの施設や人材の活用を図っている。

(7) 施設・設備の維持管理

- ・適切に管理されている。毎年、専門業者による施設設備点検を実施している。
- ・野外活動用具の更新に努めている。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

- ・日々、所員による細やかな安全点検を実施し、館内及び野外の安全が確保されている。
- ・訓練、研修により、非常時の対応スキル向上に努めている。

10 所管課の管理運営確認状況

	有/無	回数(有の場合)
①定期報告の受理	有	12
②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認	有	4
③個人情報に関するトラブルの有無	無	—
④危機管理・安全管理上のトラブルの有無	有	4

【トラブルの具体的内容と対応】

・熱中症による女子児童の救急搬送。以後エアコンの効く休憩場所を確保するようにした。
・心臓病発作による救急搬送。緊急時は躊躇せず救急車を要請するよう職員に周知した。
・洋室2段ベッドのはしごから足を滑らせ落下した事例を踏まえ、指導の徹底、はしごへの滑り止めテープ貼付を行った。

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

・今後も、経費削減を念頭に業務内容を再点検するとともに、入場者の意向を反映させながら、各種の企画や管理を工夫していく必要がある。
・平成30年度は、アンケートを生かした運営改善、利用者目線での対応や広報活動等に努め、利用者数、利用率、利用収入ともに増加した。2019年度の利用申込みも順調である。しかしながら、学校の統廃合、児童数の減少により、数年間のスパンでとらえた場合、やはり利用者数は減少傾向にある。企業、スポーツ団体など、対象を具体的に定めて働きかけ、新規の利用拡大を図っていく必要がある。
・利用者の安全・安心を最優先に優先順位をつけて計画的に修繕に努めていく必要がある。